

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患等政策研究事業）
強直性脊椎炎に代表される脊椎関節炎および類縁疾患の医療水準ならびに
QOL 向上に資する大規模多施設研究
班分担研究報告書 2021-2023

脊椎関節炎診療に用いる用語の統一並びに用語集作成に関する研究

研究代表者： 富田 哲也（森ノ宮医療大学大学院保健医療学研究科）

研究分担者： 岡本 奈美（大阪医科大学小児科学）

山村 昌弘（岡山済生会総合病院 内科）

大久保 ゆかり（東京医科大学 皮膚科学）

小田 良（京都府立医科大学 整形外科）

亀田 秀人（東邦大学医学部内科学講座膠原病学分野）

岸本 暢将（聖路加国際大学 聖路加国際病院 アレルギー膠原病科）

辻 成佳（日本生命済生会日本生命病院リハビリテーション科）

中島亜矢子（三重大学 リウマチ膠原病内科学）

中島 康晴（九州大学大学院医学研究院整形外科）

松井 聖（兵庫医科大学内科学リウマチ・膠原病科）

森 雅亮（東京医科歯科大学 生涯難病免疫講座）

森田 明理（名古屋市立大学大学院医学研究科 加齢・環境皮膚科学）

研究協力者： 秋葉 陽介（新潟大学大学院医歯学総合研究科 生体歯科補綴学分野）

小林 里実（聖母病院皮膚科）

清水 智弘（北海道大学 整形外科）

首藤 敏秀（泉和会千代田病院 整形外科）

高原 幹（旭川医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科）

田村 誠朗（兵庫医科大学内科学リウマチ・膠原病科）

槻木 恵一（神奈川歯科大学病理・組織形態学講座

環境病理学分野/分子口腔組織発生学分野）

津田 淳子（聖母病院皮膚科）

野田 健太郎（のだ内科・リウマチ膠原病・訪問診療クリニック）

研究要旨：強直性脊椎炎に代表される脊椎関節炎(spondyloarthritis : SpA)は、体軸に関節炎を認める原因不明の疾患群で、末梢関節炎や付着部炎を認めるほか、皮膚・眼・消化管など全身臓器に炎症を伴う病態を含む。HLA-B27は疾患関連性が知られているものの、わが国では人口保有率が低く、リウマトイド因子や抗環状シトルリン化ペプチド(CCP)抗体などの自己抗体も陰性であることが多いため、診断まで時間を要する事が知られている。リウマチ専門医の間では疾患の認知・理解が進みつつあるが、非専門医や一般人口における認知度は必ずしも高くない。わが国では2020年にIL-17阻害薬である生物学的製剤のセクキヌマブがnon-radiographic spodyloarthritisに対して適応になり、初めて“spondyloarthritis”が病名として保険診療の現場に登場した。前回の研究班では本用語の和訳を議論し、その定義や分類基準について策定した。また、同年には「脊椎関節炎診療の手引き2020」が発刊された。内科、整形外科、皮膚科、小児科など複数の科が関わる疾患であることもあり、この中で脊椎関節炎診療領域の用語および和訳が一定していないこと、定義を明確にすべき用語のあることなどが明らかになった。

そこで、本研究班の用語統一班では、①『脊椎関節炎診療の手引き2020』、欧州リウマチ学会の8つのRecommendationなどから抽出された400を超える脊椎関節炎診療に必要な用語の中から260語程度の和訳と40語程度の定義を検討した。また、専門医・非専門医に対して広く適切な用語・定義の啓発を行う事を目的に、②学会ホームページを通じて公表するための方法論を講じる事とした。さらに、③学会および研究班の成果物について上記用語集に即した校正を行う事とした。また、2022年には関連疾患として「掌蹠膿疱症性骨関節炎の手引き」が出版されたため、④掌蹠膿疱症性骨関節炎診療に必要な用語に対しても用語集・解説集を作成することとした。抽出し耳鼻咽喉科、口腔外科領域で共通した和訳や定義を作成することを掲げた。2023年12月までに①②③を完了し、④も今年度中に完成して①の用語集に追加予定である。

A. 研究目的

強直性脊椎炎(ankylosing spondylitis: AS)をはじめとする脊椎関節炎(spondyloarthritis : SpA)は、リウマトイド因子陰性の体軸性関節炎と末梢関節を特徴とする疾患群の総称で、強直性脊椎炎の他、乾癬性関節炎、炎症性腸疾患に伴う関節炎、反応性関節炎などを包括する。HLA-B27 保有率の高い国では、脊椎関節炎は関節リウマチに次いで多い関節炎疾患で広く認識されているが、わが国では HLA-B27 の保有率が低く、広く認識されているとは言いがたい状況である。

近年、TNF 阻害薬、IL-17 阻害薬などの生物学的製剤の脊椎関節炎への適応拡大とともに、脊椎関節炎に対する疾患認識が高まり、同時に脊椎関節炎領域の診療に必要な解剖・症状・臨床所見・画像所見などに関する英文用語の和訳統一がなされていないことも明らかとなった。前回の班研究に引き続く今回の班研究では昨年度、脊椎関節炎診療に関わる用語の和訳統一と一部の用語について知っておくべき意味や定義を明文化し、脊椎関節炎疾患診療に専門ではない医療者にも役立つように、日本脊椎関節炎学会(Japan Spondyloarthritis Society, JSAS)のホームページに掲載することを目的とした。今年度はさらに、『掌蹠膿疱症

性骨関節炎 診療の手引き 2022』から掌蹠膿疱症性骨関節炎診療に必要な用語の和訳と定義を検討することも目的とした。

B. 研究方法

下記タスク別に小班を構成し、対応した(資料1)。

1) 脊椎関節炎用語集作成とJSASホームページでの公表:「脊椎関節炎診療の手引き2020」および欧州リウマチ学会の

recommendationなど、脊椎関節炎診療に関わる重要な文献から抽出された専門用語に、リウマチ学・整形外科学・小児科学・皮膚科学・解剖学用語などを加えた約400語を抽出した。それぞれの関連分野・学会における用語集や文献を参照に、統一和訳に関する検討を行い合意をえる方法をつた。確定した用語集はJSASに提出した。

2) 解説が必要な、定義を明らかにすべき用語の解説集の作成:上記用語集を作成する経過中、見ただけでは内容が理解できない9つの用語を抽出した。文献等を引用し、図等も用いて解説し、JSASホームページに掲載できる体裁を整えた。

3) JSASホームページに掲載されている国際脊椎関節炎評価機構(Assessment of

Spondyloarthritis International Society, ASAS)スライド集の用語統一:JSASホームページにあるASAS教育用スライドのそれぞれについて、ASASのオリジナルスライドを参照に、上記用語集の和訳に統一し整備する

4) 掌蹠膿疱症性骨関節炎診療に必要な用語和訳の確定と解説が必要な用語への対応:「掌蹠膿疱症性骨関節炎 診療の手引き 2022」をもとに、診療に必要な用語を抽出。掌蹠膿疱症性骨関節炎分担任と協同する形で、皮膚科、整形外科、耳鼻咽喉科、口腔外科領域の各分野研究協力者からなるワーキンググループを立ち上げ、共通した和訳や定義を作成するための検討会を開催した。

(倫理面への配慮)

本研究は、患者個人情報を取り扱うものではないため、倫理面への配慮は要しない。

C. 研究結果

1) 脊椎関節炎用語集作成と JSAS ホームページでの公表:学会によって異なる和訳が存在する用語や、状況によって適切な和訳が異なる用語については、和訳 1・和訳 2 という形で複数記載する形をとった。疾患活動性等の評価に関する複合指標など、適切な和訳が存在しない用語についてはあえて和訳を設定しないこととした。用語集は JSAS に提出し、執行部の校閲を経て 2023 年 12 月にホームページに検索機能もつけて掲載した(資料 2)。

2) 解説が必要な、定義を明らかにすべき用語の解説集の作成:解説が必要な、定義を明らかにすべき用語として 9 の用語を抽出した。

「back pain、low back pain、inflammatory back pain」、「axial joints と axial spondylitis」、「backfill」、「apophyses と epiphyses」、「fascia、planter fascia と heel pain」、「sausage digit と sausage-like finger」について、画像、イラストも用いた解説スライドを作成した(資料 3)。こちらは上記用語集と紐づく形で個々の用語ページに掲載し、また解説集全体も用語集 TOP ページに掲載した。

3) JSAS ホームページに掲載されている ASAS スライド集(2017 年度版)の用語統一:JSAS ホームページにある「ASAS」、「臨床症状」、「診断」、「疫学」、「若年性脊椎関節炎」、「仙腸関節 MRI」、「脊椎 MRI」、「転帰」、

「病因」、「治療」、「単純レントゲン像」の 11 領域 453 スライドについて、ASAS のオリジナルスライドを参照しつつ、今研究班で作成した用語集の和訳との統一を行った。修正したスライドは 2023 年 11 月にアップデートを行った。

4) 掌蹠膿疱症性骨関節炎診療に必要な用語和訳の確定と解説が必要な用語への対応:「掌蹠膿疱症性骨関節炎 診療の手引き 2022」から当初計 290 語を抽出したが、2022 年 11 月の会議後に追加を行い、共通 229 語、口腔外科領域 25 語、耳鼻科領域 16 語、皮膚科領域 89 語、計 363 語を抽出した。このうち研究用語や類似用語を除外し、各領域の用語集と照合して、2023 年 11 月時点で最終的に共通 151 語、口腔外科領域 23 語、耳鼻科領域 11 語、皮膚科領域 67 語、計 252 語を採用した。これらについて小班内で統一和訳の選定を行った後、研究班全体で討議を行い最終決定とする予定である。

また、他領域の臨床医にとってなじみのない用語について定義を明確にすることは必要と考え、解説集の作成を行う予定である(特に歯科口腔外科領域の用語。例:「歯周病と歯周炎」「前胸壁と前胸部」の違い)。現時点で議論のある用語が「hyperostosis」と「focal tonsil/tonsillar focal disease」である。前者は通常「骨増殖性変化」と訳され、軟骨内骨化が発生機序と考えられるが、sternocostoclavicular hyperostosis (SCCH) の場合は胸鎖鎖骨骨肥厚症と訳される。「hyperostosis」の和訳に「骨肥厚症」を含めるかどうか、また発生機序など解説に関する記載については今後班全体での討議が必要と考える。後者については近年耳鼻科領域では“感染症ではない”との理由で“infection”を用いず、「focal tonsil=扁桃扁桃」による「tonsillar focal disease=扁桃扁桃疾患」という概念・和訳が提示されている。しかし、一般的には世界的に「扁桃感染」という用語が用いられており、本疾患との関連が示される症例もあるため、説明を要する用語として解説集に含める予定である。

D. 考察

強直性脊椎炎は遺伝的背景の違いから、わが国ではその患者数は少なく、認知度が低いものの、乾癬や炎症性腸疾患に関連する脊椎

関節炎は増加しており、医療現場における疾患の理解とその専門医の育成が進捗することは喫緊の課題である。

『脊椎関節炎診療の手引き 2020』はバックグラウンドの異なる複数の執筆者により分担執筆されたため、和訳が統一されていないという問題があった。また、非専門医には用語の定義などが明確でないものも少なくないことから、用語統一および定義を明らかにする必要性が確認され、本研究が進んだ。その結果、和訳統一用語集の作成、定義や説明が必要な用語集の作成に至った。これらの用語を、教育的な見識も兼ね、誰でもアクセスできるような状態に置くことの重要性が認識され、JSAS のホームページに掲載した。また、2023 年 11 月現在、掌蹠膿疱症性骨関節炎の用語集・解説集もほぼ完成しており、班内の承認と JSAS 執行部の校閲を経て追加掲載予定である。この研究を通じ、皮膚科、内科、整形外科、口腔外科、耳鼻科、放射線科など多数の専門家と領域を横断して議論や情報共有を行い、いわば“共通言語”を策定し得えたことは、今後本疾患の研究を進めるにあたって大きな一助になったと考える。また、領域の用語集を参考にしたが、歯科口腔外科領域では海外の用語集が複数あることなど複雑な構造が明らかとなった。このように専門家間であっても疾患理解が困難な複雑な疾患であることを再認識するとともに、時代や研究進歩により用語や定義は都度変化する可能性もあるため、今後も継続する事が重要な研究分野であると考ええる。

なお、ASAS の教育スライドは毎年 update が行われており、現在ホームページには更新された計 558 枚のスライドが掲載されている。特に MRI 所見、治療など重要部位が改訂されており、今後和訳版も逐次 update する必要がある。こちらは今後 JSAS の国際委員会が中心となって改訂を行う予定であるが、翻訳の校閲や新たな用語の和訳については本研究班でも討議を行っていきたいと考える。

E. 結論

脊椎関節炎診療にかかわる用語の和訳統一と定義の明文化ならびに教育スライドの和訳修正を行った。他分野の専門家が関わる疾患の研究においては、共通言語による共通認識をもってあたることが重要である。

F. 研究発表

1. 論文発表
なし

2. 学会発表
なし

(発表誌名巻号・頁・発行年等も記入)

G. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)

1. 特許取得
なし

2. 実用新案登録
なし

3. その他
なし